

# 「水」を通して奥日光の環境 保全を考える住民団体



**奥** 日光で、平成6年から自然環境を考える活動をしている地域住民の団体「奥日光水の会」を紹介します。

**活動を始めたきっかけについて教えてください**

地元のメンバーが集まった際に、日光の自然の豊かさと環境保全の重要性について話が盛り上がったことがきっかけです。環境問題に取り組む上で、全ての基盤は「水」であると考え、まずは中禅寺湖や湯の湖の水質検査を実施することになりました。検査に必要な機材の購入は、中宮祠のレストランで開催したガレージセール(フリーマーケットのようなもの)の出店料で賄いました。

**メンバーはどのような方たちですか？**

地元の宿泊施設や商店などの女将さんたちで、約40名の会員がいます。その他に湯元ビジターセンターや日光自然博物館の若い職員も協力してくれています。

**会の活動内容は？**

年に2回の水質検査やガレージセール、小中学校への出前講座などです。出前講座では、次の世代を担う子どもたちが環境について考えるきっかけとなるよう、紙芝居の上演や水質検査データの説明などを行っています。

**これまでの活動で印象に残っていることを教えてください**

会の創立20周年を記念し、平成25年に中禅寺湖畔に山桜を植樹したことです。会の発足には、歌ヶ浜の物産店の岩崎育代さんが深く関わりました。岩崎さんは平成18年に55歳の若さで亡くなりましたが、日光の自然を愛するその遺志は、今でもこの地で生き続けています。私たちは彼女の在りし日の活躍をしのび、「育代桜」と名前を付けました。

また、県内の酒蔵「井上清吉商店」の協力を得て、奥日光地区限定販売の地酒「奥日光貴婦人」を作ったことも思い出深い出来事です。この日本酒は、湯元地区の宿泊施設などで購入することができます。

**活動後、何か環境に関して変化はありましたか？**

湖の水質自体に目立った変化は見られませんが、会の活動を通じ、少しずつ環境に対する住民の意識が変わって来たように感じます。

**市民の皆さんに伝えたいことはありますか？**

日光市は自然に恵まれたとてもすばらしい場所です。このような環境は全国的にも珍しく、決して「当たり前」のものではありません。他の土地から嫁いで来た私たちだからこそ、その特異性を強く感じているのかも知れません。

日光を愛し、その思いを育み後世に伝えていくのは、この地に住んでいる私たちに他ならないと思っています。皆さんも、多くの方々に日光を愛する気持ちを発信して欲しいですね。

**♡インタビューを終えて…**

私たちが生きていく上で、切っても切り離せない水。そして、その水を育む日光の恵まれた自然環境…。今回の取材を経て、その重要性を再認識しました。福田さんたちの思いが、多くの人たちに広がっていくことを願っています。



「育代桜」と名付けられた桜の植樹